2-7

ターミナルケア「ひとつの命から学ぶ」

家族とともに介護員はどう変わったか

意識改革

ターミナルケア

特別養護老人ホーム 清風園

介護主任 吉田美香

介護員 佐野弘幸

東京都町田市金井7丁目17番13号

介護員 清水恵子

TEL: 042-735-3000

E-mail seifu@san-ikukai.or.jp

FAX: 042-734-8933

URL

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人賛育会が母体である清風園は、創立43周年を迎えた、都内でも2番目に古い施設です。現在は、110床の特養に3床のショートステイ、他にデイサービス、グループホーム、訪問看護、訪問介護が併設された複合施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 施設全体でのターミナルケアへの理解と指針作り
- ターミナルケア勉強会(年間を通して)の実施
- 思ふ会の実施(家族の思いを聞く会)
- ターミナルケアの実施
- 振り返りシートの活用

〈具体的な取り組み〉

- 生活部会議で、施設全体での指針(方針)を決定し、常勤医師との連携をすすめる
- ターミナルケアに対する認識の統一の為の定期的な勉強会の実施(全職員対象)
- 外部研修(ターミナルケア・映画等)への自主参加
- 他施設の実施状況のリサーチ
- 治療確認シートの作成と活用
- ターミナル確定後のケアカンファレンス(週1回)と朝礼での報告・確認
- 生活関連部署の連携によるターミナルケアの実施
- 生活部とご家族と常勤医師との定期的な状況説明の実施
- 振り返りシートを基にご家族からの聞き取り
- 御家族と現場職員(介護員)参加による思ふ会の実施と感想
- 生活部会議での検証
- 現場介護職員のエンジェルケアの実施

〈活動の成果と評価〉

- 施設全体での取り組みの中で、常勤・非常勤に関係なく、「看取る」ケアへの理解と対応、連携が出来るようになった。
- 現場職員が、ご本人への精神的ケアは無論、ご家族の迷いや不安(精神的ケア)にも、真摯な対応や気付きが出来るようになった。
- 以前は、ターミナルになると、栄養状態が悪化する為、様々な症状(じょくそう・拘縮など)が生じるのは、致し方ないとの考えがあったが、現在は、普段と同様の生活を維持できるように、じょくそうはゼロ、苦痛も軽減するという意識が浸透し、実践している。ケアの質が向上した。
- 現場の介護職員がエンジェルケアに携わる事で、最後まで看取ることの責任と重みを実感できる。
- 家族との「思ふ会」は、施設側、ご家族・現場職員の本音や発見、要望を聞ける場所であり、自己研鑽にも繋がっている。参加職員のメンタルケアにもなっている。
- 治療確認シートの活用は、早期の段階で、ご本人・ご家族・施設側に「最期」についての、共通の理解が出来ている。
- ターミナル勉強会を年間を通して実施した事による、職員の啓発啓蒙が進んだ。

〈今後の課題〉

- デスカンファレンスの早期実施
- 「最期」についてご家族とご本人が異なる場合の対応
- 普段、余りご本人とご家族の関係が良好ではない方への施設としての取り組みについて
- ご家族が安心して宿泊できる環境整備について